参考資料2

観光を取り巻く現状（資料集）

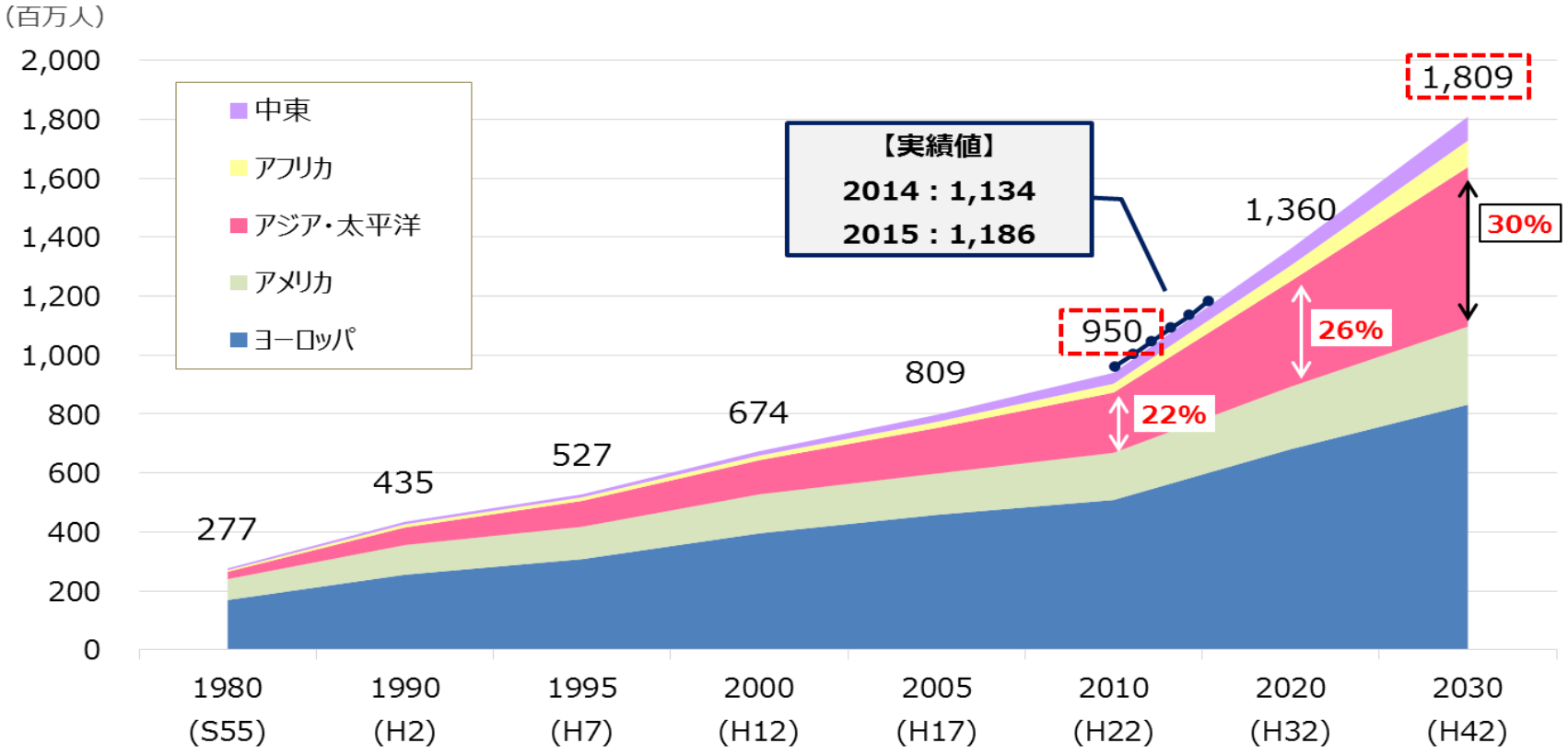
平成28年12月26日

東　　京　　都

世界の旅行者数の推移（今後の予測）・・・・・・・・・・・・・・１
訪日外国人旅行者数の推移・・・・・・・・・・・・・・２
国・地域別訪日外国人旅行者数の内訳（2015年）・・・・・・・・・・・・・・３
外国人旅行者受入数の国際比較（2015年）・・・・・・・・・・・・・・４
空路又は水路による外国人旅行者受入数の国際比較（2014年）・・・・・・・・・・・・・・５
日本人出国者数の推移・・・・・・・・・・・・・・６
訪都旅行者数の推移・・・・・・・・・・・・・・７
訪都外国人旅行者が多く訪れる都内の地域（2015年）・・・・・・・・・・・・・・８
国・地域別訪日外国人旅行者のリピーター割合（2015年）・・・・・・・・・・・・・・９
国際旅行収支の推移・・・・・・・・・・・・・・１０
訪日・訪都外国人旅行者の消費額推移及び国内・訪都日本人旅行者の消費額推移・・・・・・・・・・・・・・１１
国・地域別訪日外国人旅行者消費額の割合（2015年）・・・・・・・・・・・・・・１２
国・地域別の費目別一人当たり旅行消費額上位10位（2015年）・・・・・・・・・・・・・・１３
訪日・訪都外国人旅行者一人当たりの旅行消費額の推移・・・・・・・・・・・・・・１４
都内延べ宿泊者数の推移及び都内宿泊施設の客室稼働率推移・・・・・・・・・・・・・・１５
都内宿泊施設数・客室数の推移・・・・・・・・・・・・・・１６
ビザ緩和の変遷・・・・・・・・・・・・・・１７
空海港別の入国外国人数の推移・・・・・・・・・・・・・・１８
世界のクルーズ人口の推移・・・・・・・・・・・・・・１９
クルーズ船による外国人入国者数・・・・・・・・・・・・・・２０
国内港湾へのクルーズ船寄港回数の推移・・・・・・・・・・・・・・２１
国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社）・・・・・・・・・・・・・・２２
国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社及び日本船社）・・・・・・・・・・・・・・２３
世界各都市における国際会議の開催件数の推移・・・・・・・・・・・・・・２４
訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷・・・・・・・・・・・・・・２５
外国人旅行者が旅行中に困ったこと（2015年）・・・・・・・・・・・・・・２６
西多摩地域の入込観光客数の推移・・・・・・・・・・・・・・２７
伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移・・・・・・・・・・・・・・２８
世界の人気観光都市ランキング2016・・・・・・・・・・・・・・２９
Condé Nast Traveler（コンデ・ナスト・トラベラー）　Best Cities in the World・・・・・・・・・・・・・・３０

世界の旅行者数の推移（今後の予測）

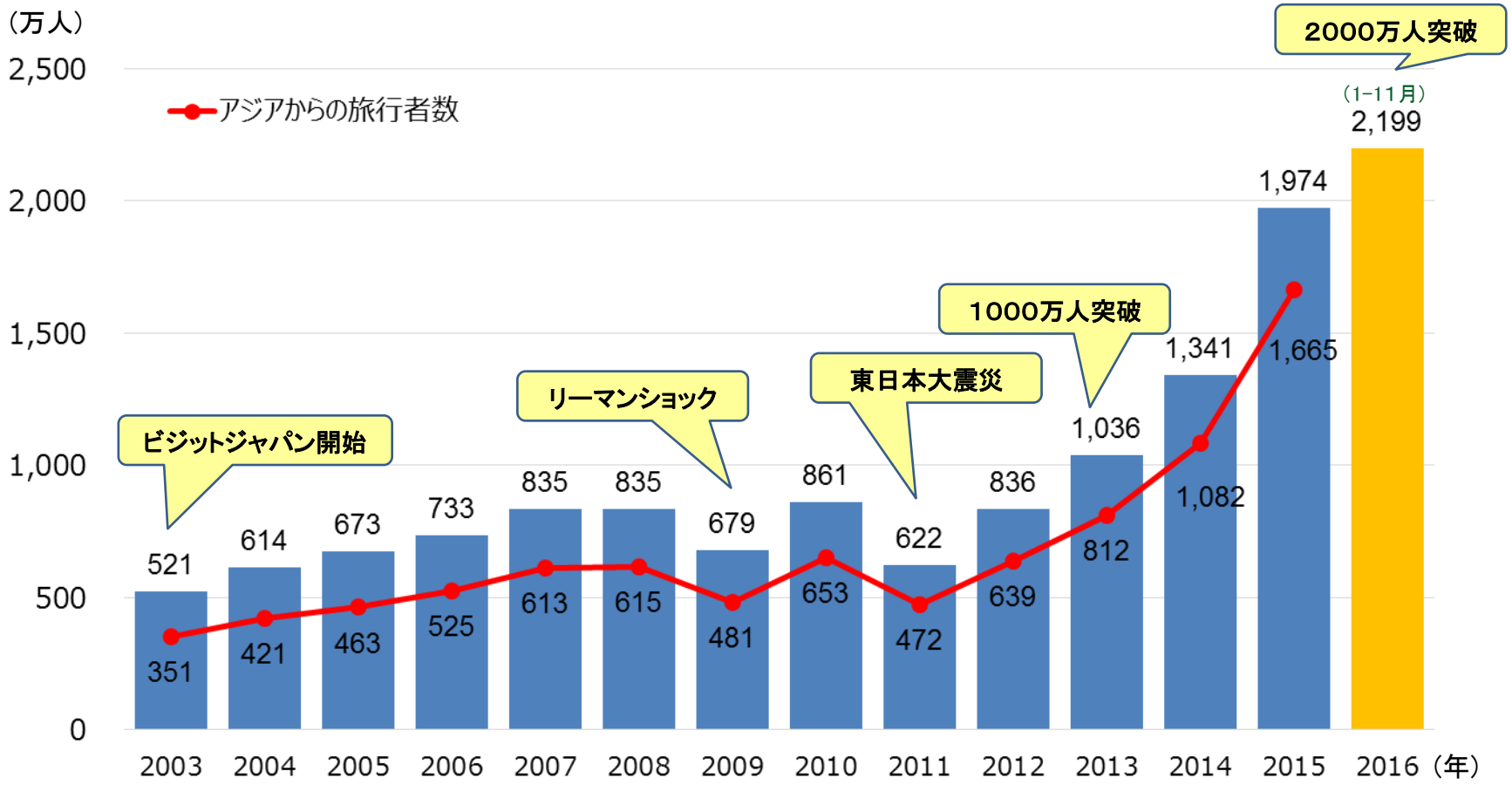
- 全世界の旅行者数は増加傾向にあり、2010年には約9.5億人に達している。
- **2030年には約18.1億人と、2010年の２倍程度に増加**することが予測されている。



出典：「Tourism Highlights 2016 Edition」（世界観光機関）

訪日外国人旅行者数の推移

- 訪日外国人旅行者数は**この10年間で約３倍に増加**
- 2016年の訪日外国人旅行者数は11月までの累計で**2,000万人を突破**

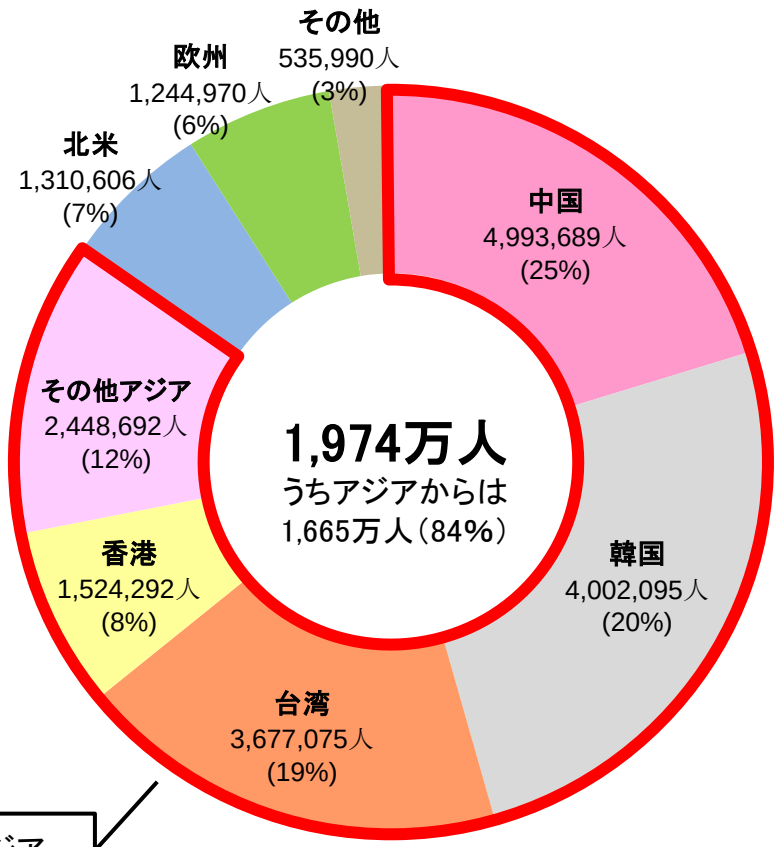


注：2016年は速報値。また、アジアからの旅行者数は9月までの公表のため掲載していない。

出典：日本政府観光局（JNTO）

国・地域別訪日外国人旅行者数の内訳（2015年）

➢ 2015年の訪日外国人旅行者の内訳は、中国、韓国、台湾などの**アジアからの旅行者が全体の84%を占める**



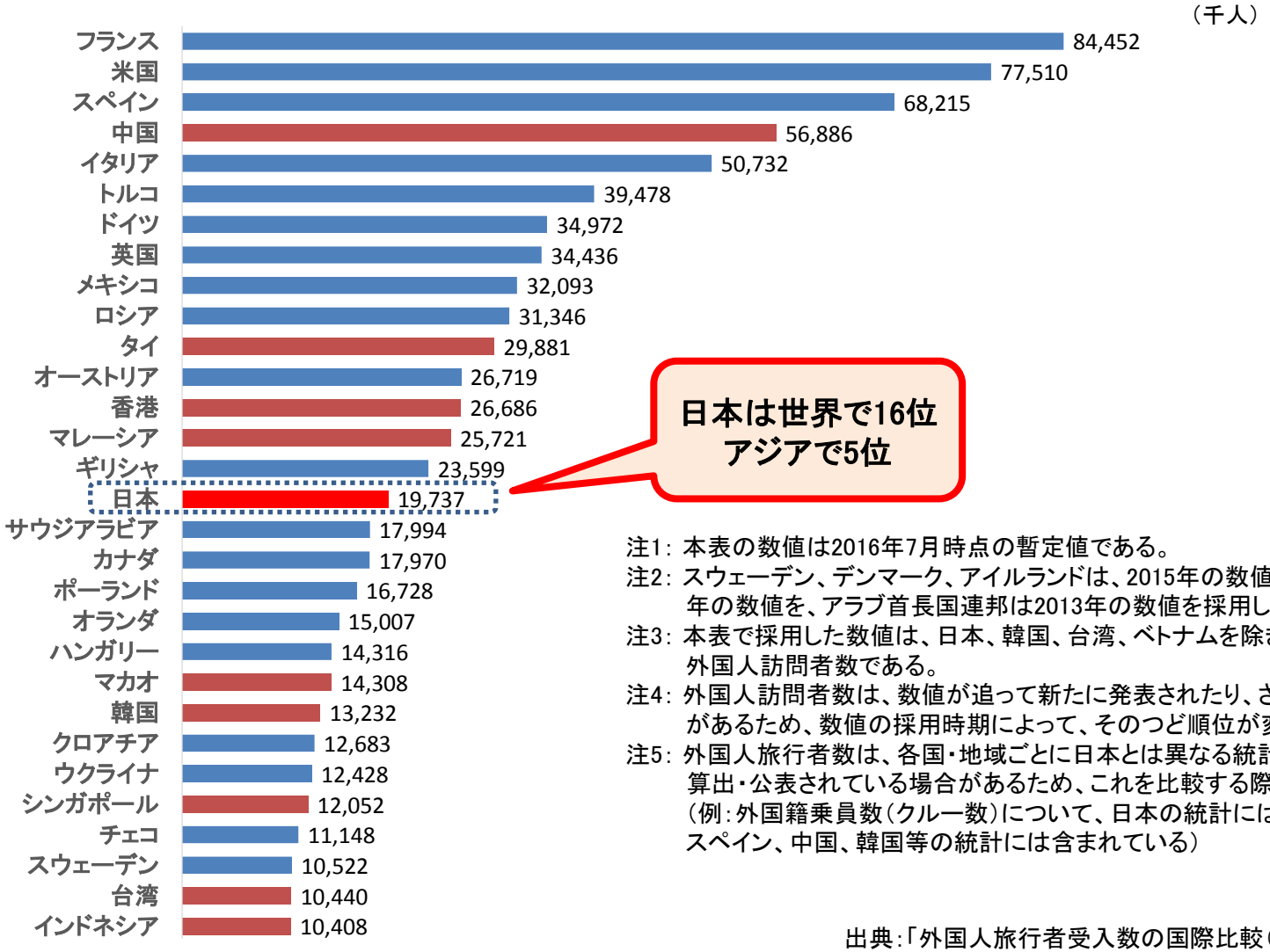
赤枠内＝アジア

注：その他アジア（タイ、シンガポール、マレーシア、インド、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど），北米（米国、カナダなど）、欧州（英、仏、独、伊、西など）、その他（豪、ブラジルなど）。

出典：日本政府観光局（JNTO）

外国人旅行者受入数の国際比較（2015年）

➢ 2015年の日本における外国人旅行者受入数は1,974万人で、**世界で16位**（アジアで5位）

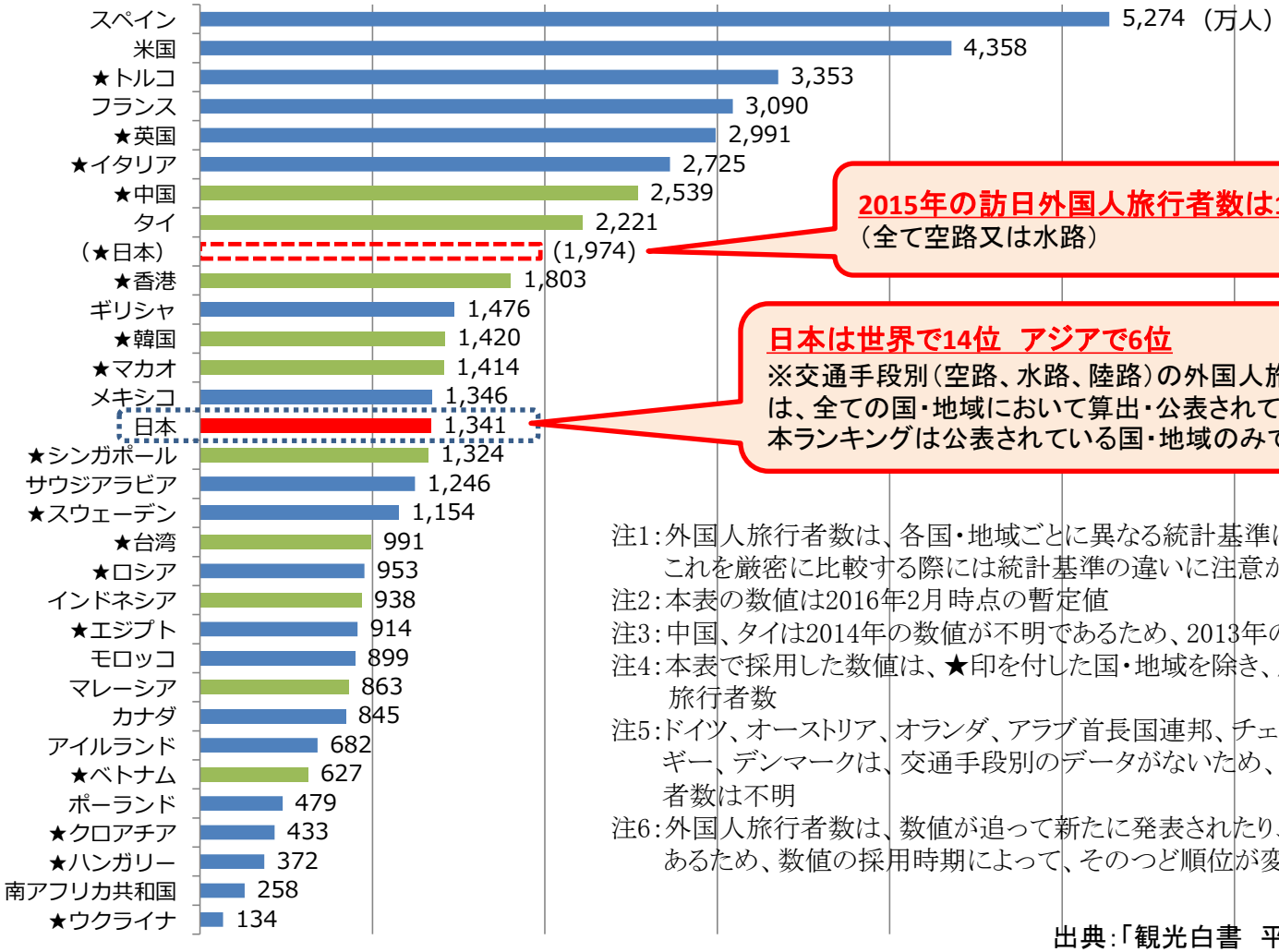


注1：本表の数値は2016年7月時点の暫定値である。
注2：スウェーデン、デンマーク、アイルランドは、2015年の数値が不明であるため、2014年の数値を、アラブ首長国連邦は2013年の数値を採用した。
注3：本表で採用した数値は、日本、韓国、台湾、ベトナムを除き、原則的に1泊以上した外国人訪問者数である。
注4：外国人訪問者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る。
注5：外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合があるため、これを比較する際には注意を要する。
（例：外国籍乗員数（クルー数）について、日本の統計には含まれないが、フランス、スペイン、中国、韓国等の統計には含まれている）

出典：「外国人旅行者受入数の国際比較（2015年）」（観光庁）

空路又は水路による外国人旅行者受入数の国際比較（2014年）

- 2014年の日本における空路・水路の受入数は1,341万人で、**世界で14位**（アジアで6位）
- 世界の観光先進国であるイギリスやイタリアも空路・水路による受入数は2000万人台



2015年の訪日外国人旅行者数は1,974万人
（全て空路又は水路）

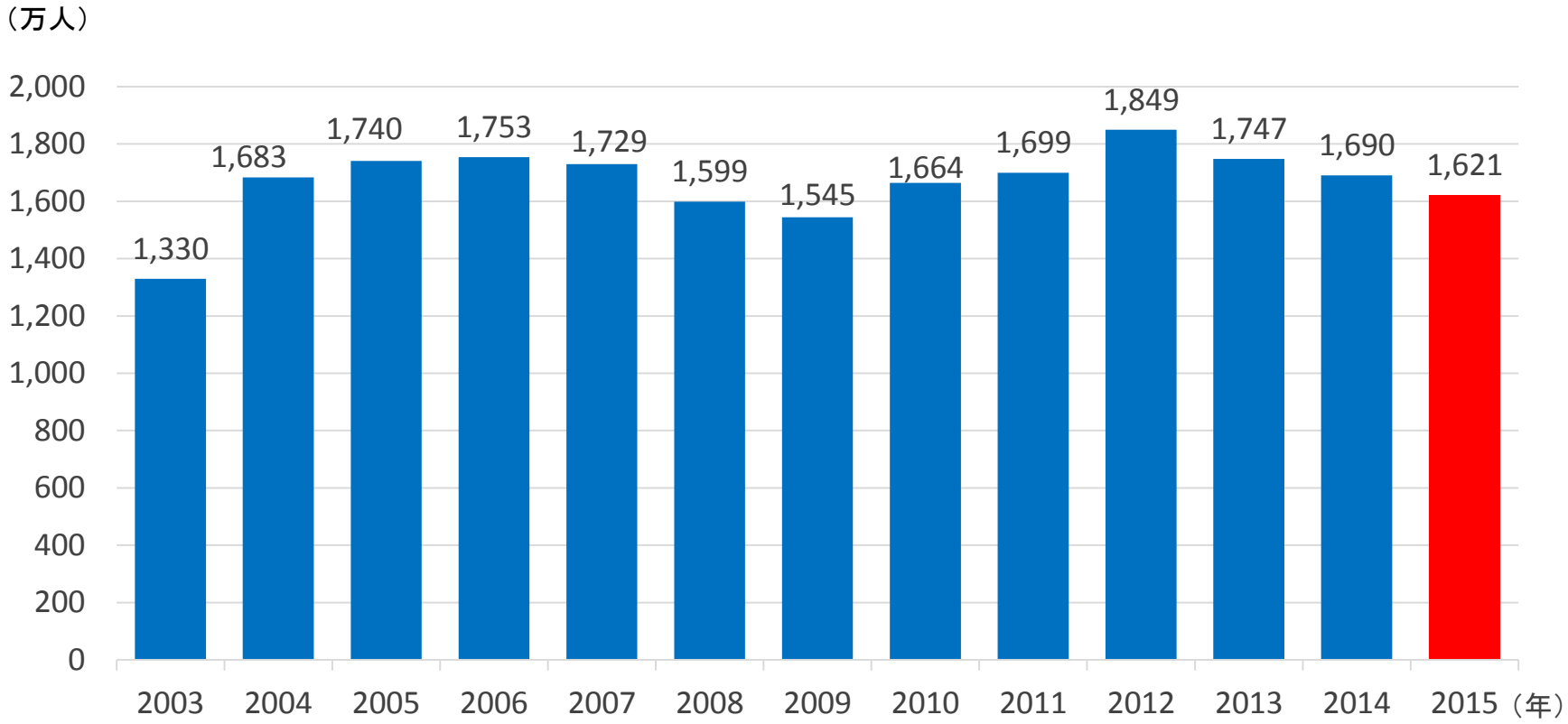
日本は世界で14位　アジアで6位
※交通手段別（空路、水路、陸路）の外国人旅行者数は、全ての国・地域において算出・公表されてないため、本ランキングは公表されている国・地域のみで作成

注1：外国人旅行者数は、各国・地域ごとに異なる統計基準により算出・公表されているため、これを厳密に比較する際には統計基準の違いに注意が必要
注2：本表の数値は2016年2月時点の暫定値
注3：中国、タイは2014年の数値が不明であるため、2013年の数値を採用した。
注4：本表で採用した数値は、★印を付した国・地域を除き、原則的に1泊以上した外国人旅行者数
注5：ドイツ、オーストリア、オランダ、アラブ首長国連邦、チェコ、スイス、ポルトガル、ベルギー、デンマークは、交通手段別のデータがないため、空路又は水路による外国人旅行者数は不明
注6：外国人旅行者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る

出典：「観光白書　平成28年度概要版」（観光庁）

日本人出国者数の推移

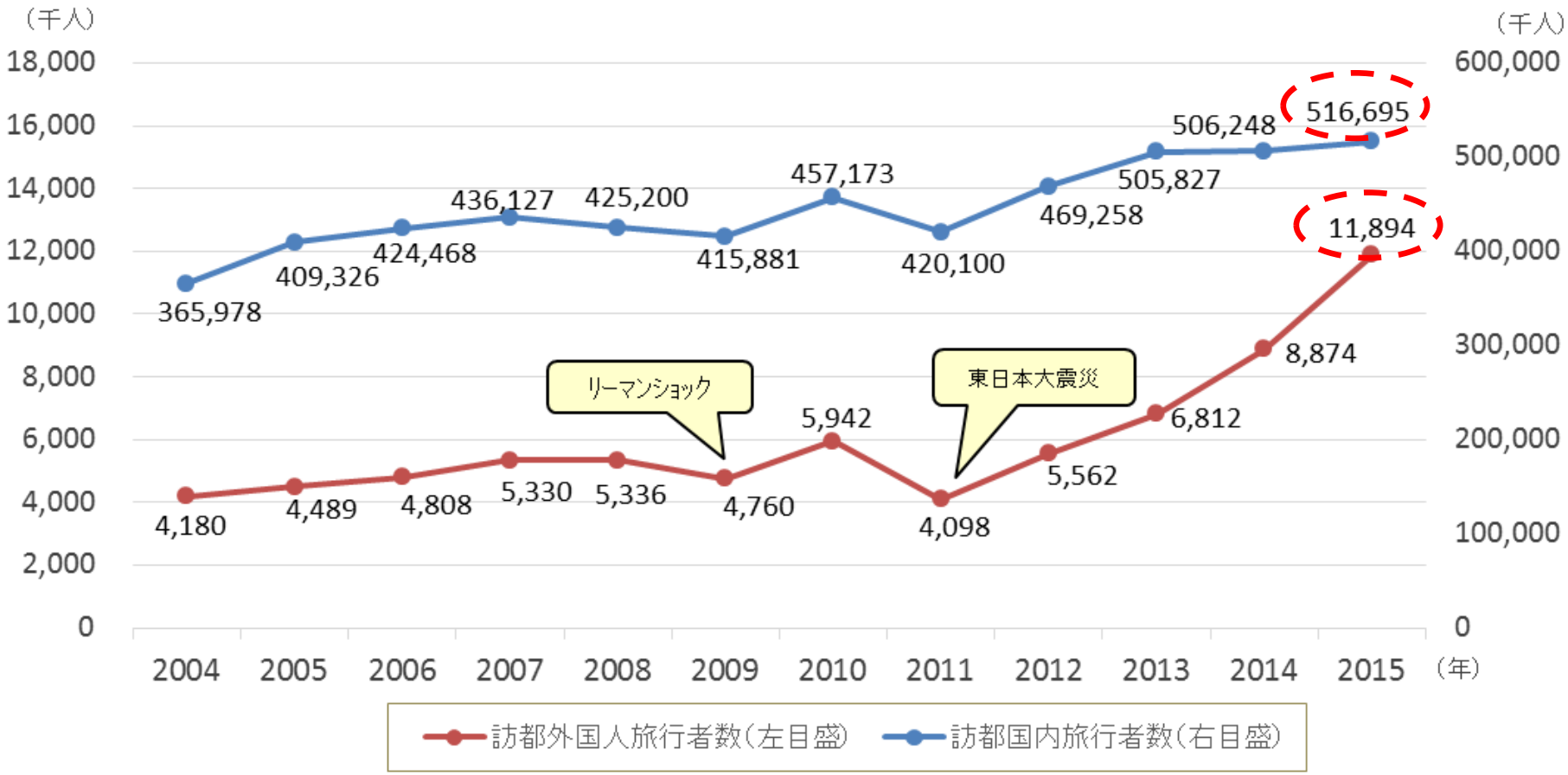
- 2015年の日本人出国者数が1,621万人となり、1970年以来45年ぶりに訪日外客数を下回った。



出典：日本政府観光局（JNTO）

訪都旅行者数の推移

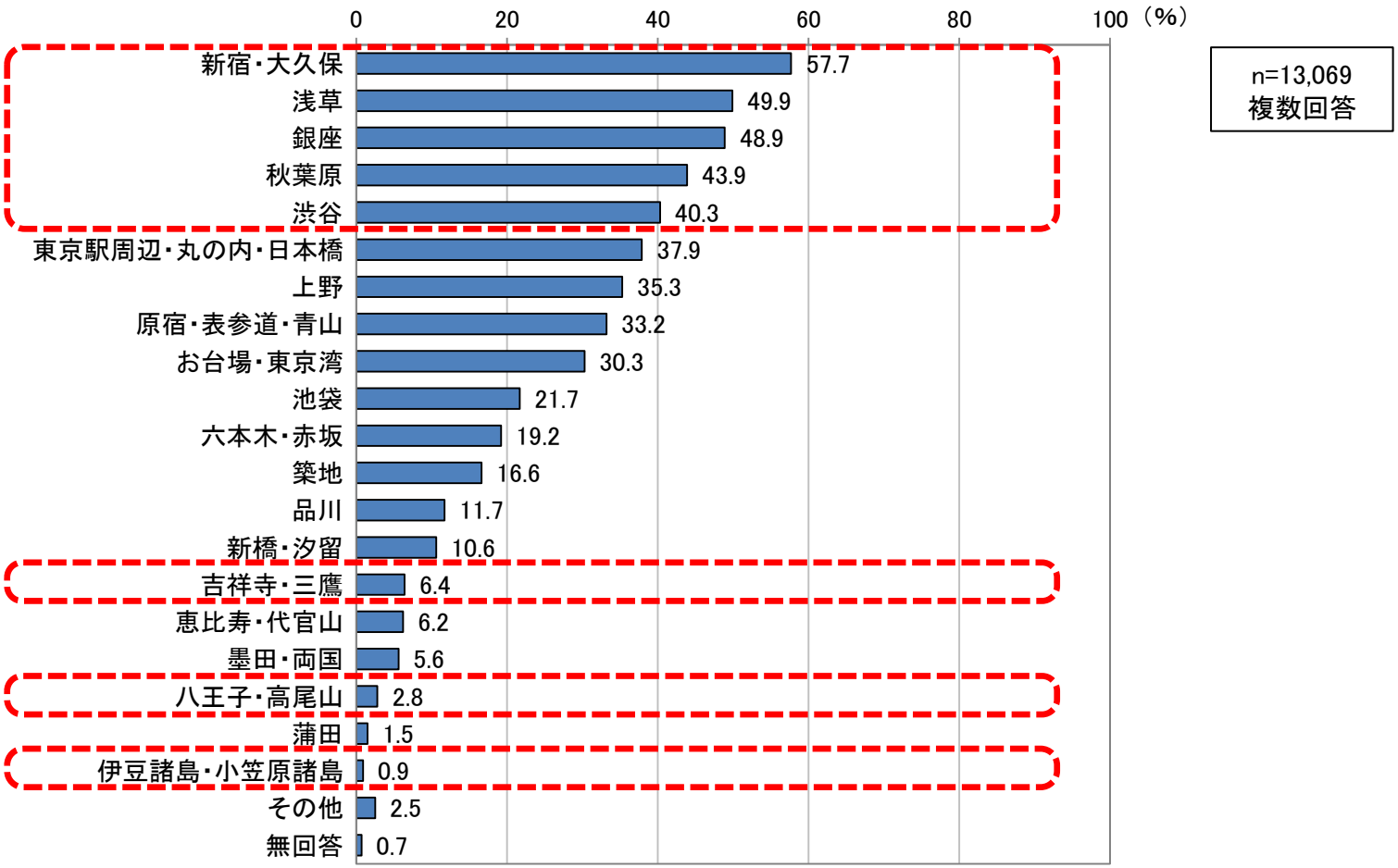
- 2015年の訪都外国人旅行者数は**約1,189万人**で、**この10年間で約2.6倍に増加**
- 訪都国内旅行者数も増加傾向にあり、2015年は過去最高の**約5億1,670万人**



出典：「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

訪都外国人旅行者が多く訪れる都内の地域（2015年）

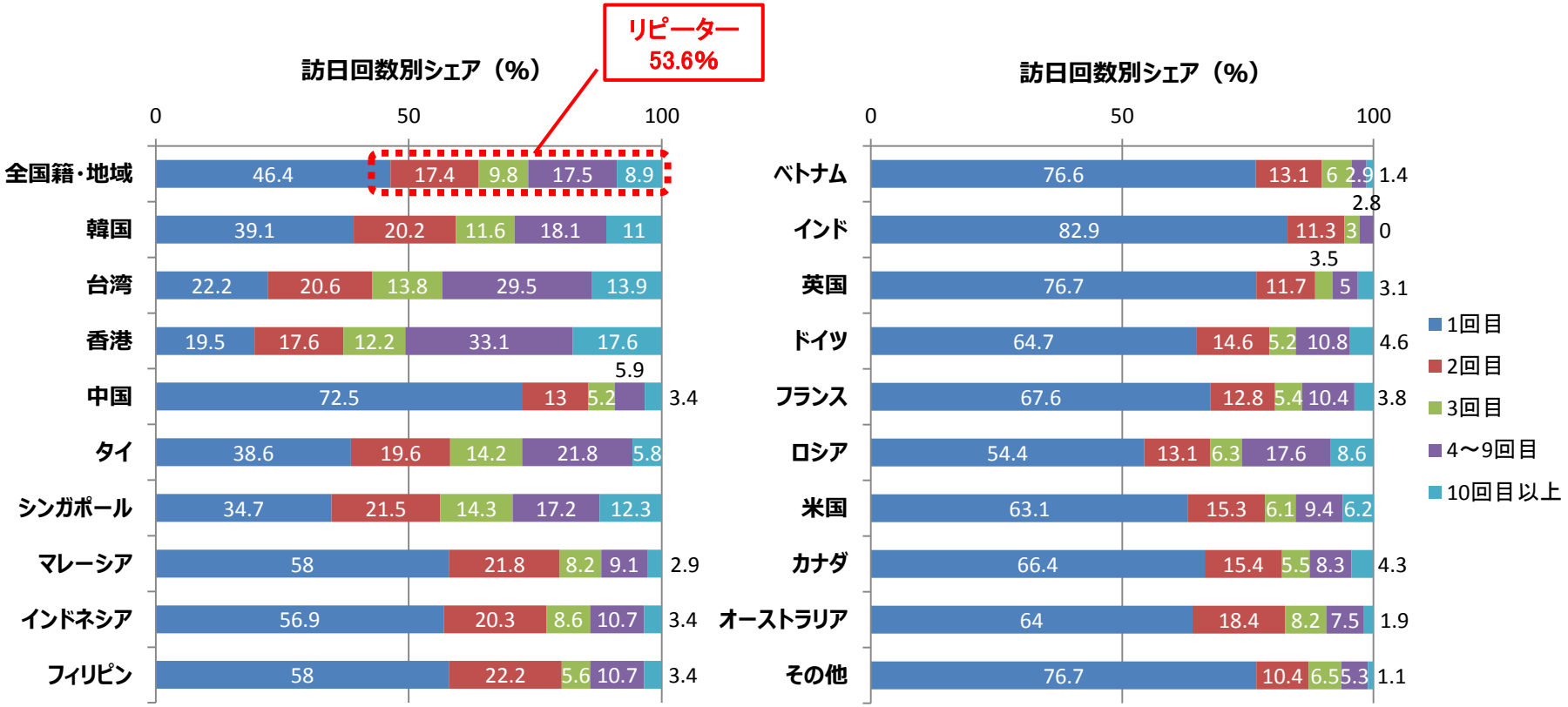
- 訪都外国人旅行者が多く訪れた地域は、①新宿・大久保、②浅草、③銀座、④秋葉原、⑤渋谷の順で、都心部が中心となっている。
- 都心部と比べ、**多摩・島しょ部への送客は進んでいない**。



出典：「平成27年度国別外国人行動特性調査報告書」（東京都）

国・地域別訪日外国人旅行者のリピーター割合（2015年）

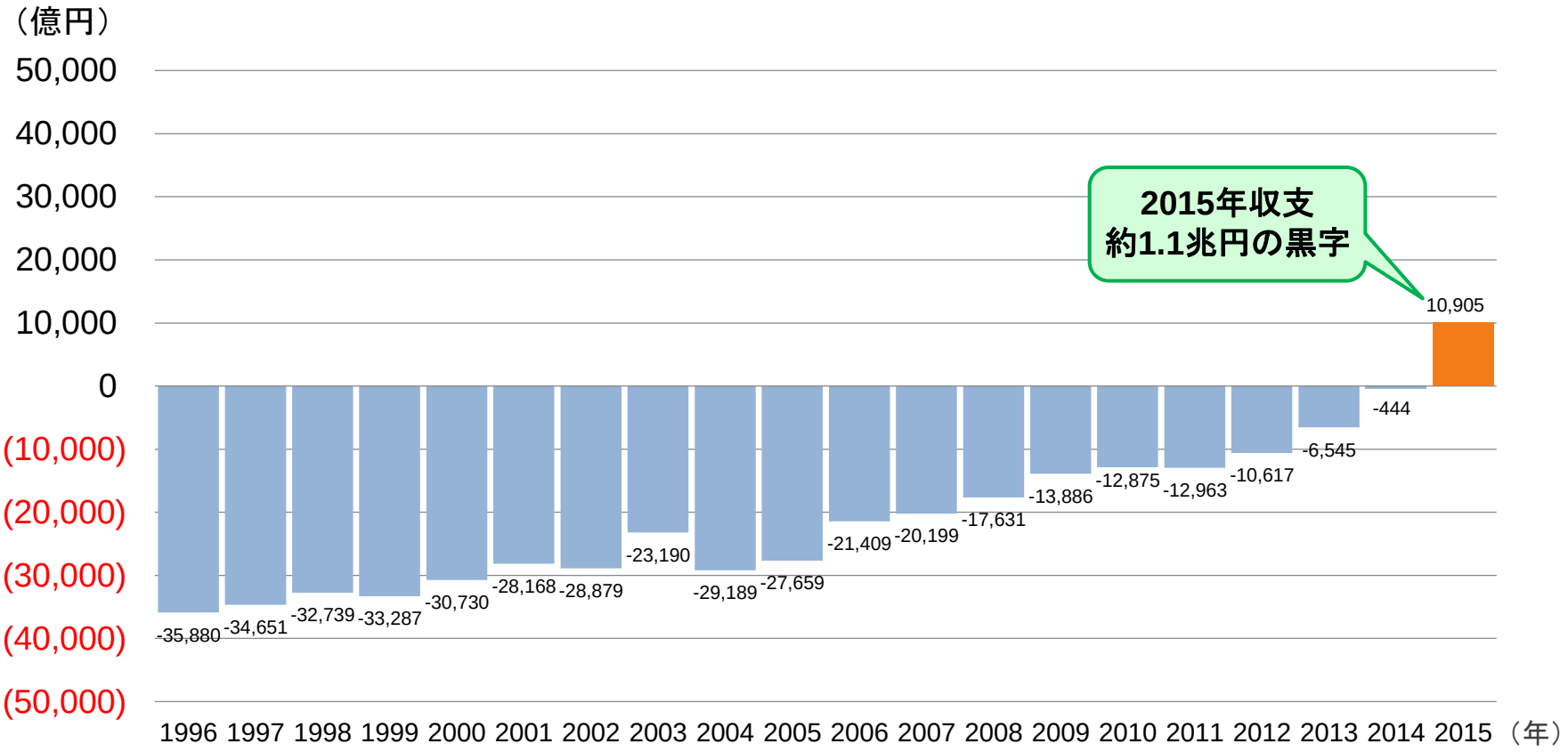
- 訪日外国人旅行者の**約５割はリピーター**が占める。
- リピート率の高い国・地域は、香港、台湾、シンガポールであり、**中国は初めて訪日する旅行者が72.5%と、新規訪日客が多い。**



出典:「訪日外国人の消費動向　平成27年次報告書」(観光庁)

国際旅行収支の推移

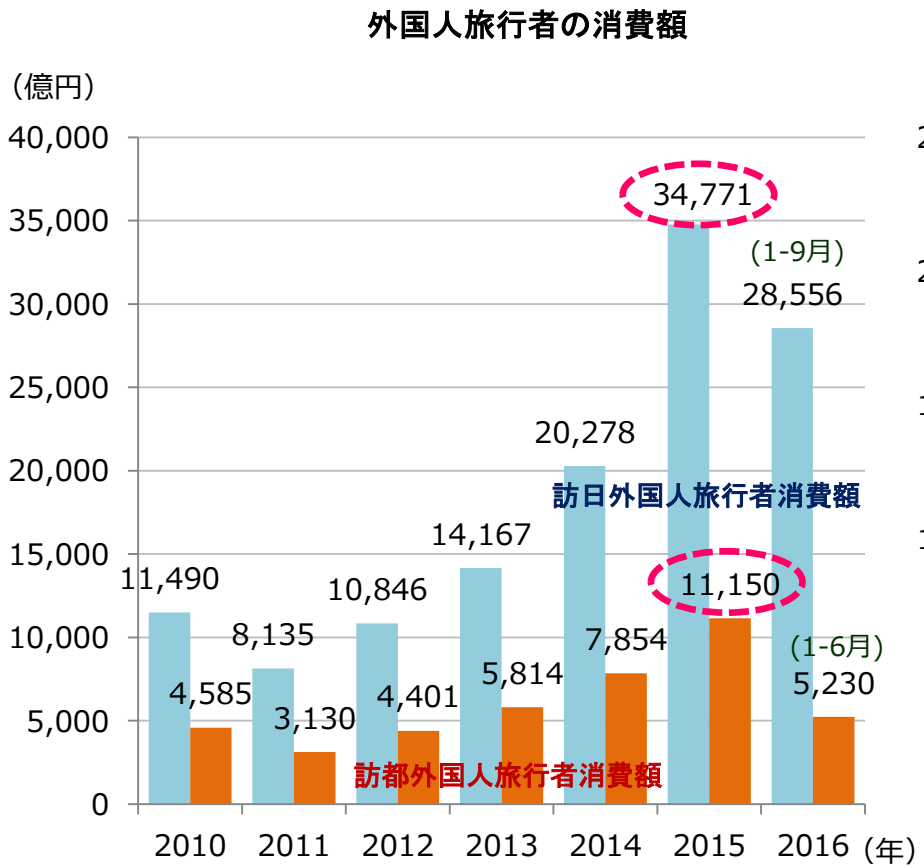
➢ 国際旅行収支は恒常的に赤字が続いていたが、2015年は1962年以来53年ぶりに**黒字化を達成**

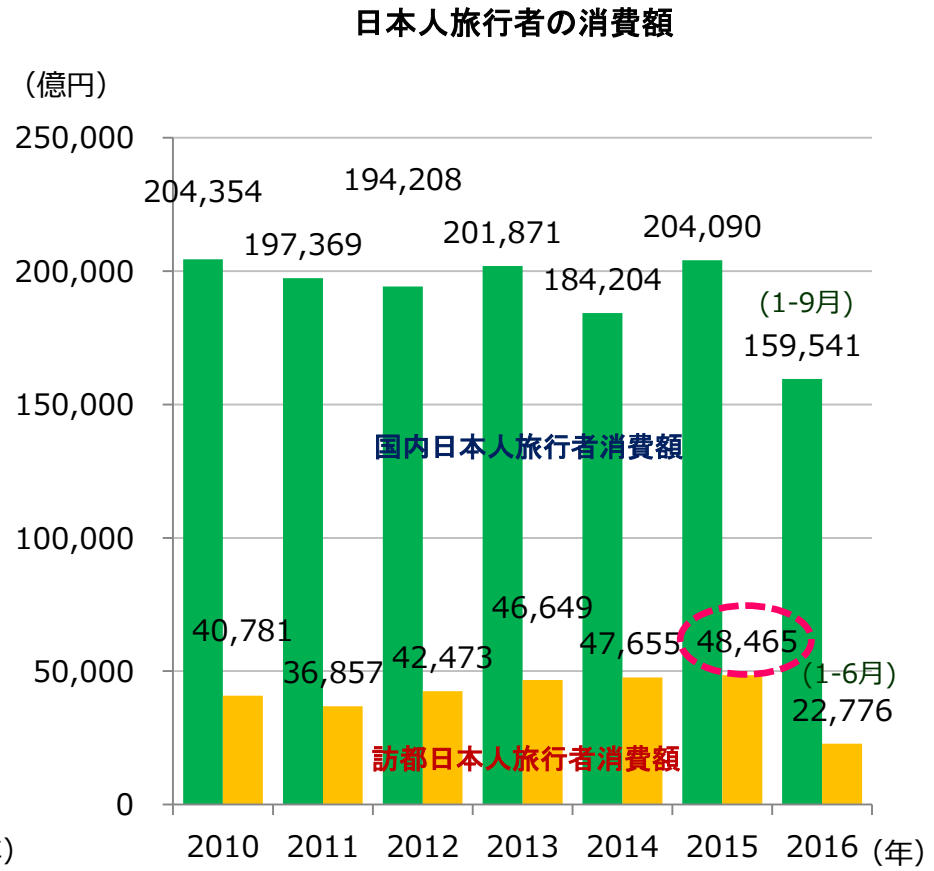


出典:「国際収支統計」（財務省）

訪日・訪都外国人旅行者の消費額推移及び国内・訪都日本人旅行者の消費額推移

- 2015年の訪日外国人による消費額は**約3.5兆円**、訪都外国人による消費額は**約1.1兆円**
- 2015年の訪都日本人旅行者による消費額は**約4.8兆円**で、2011年以降は増加傾向

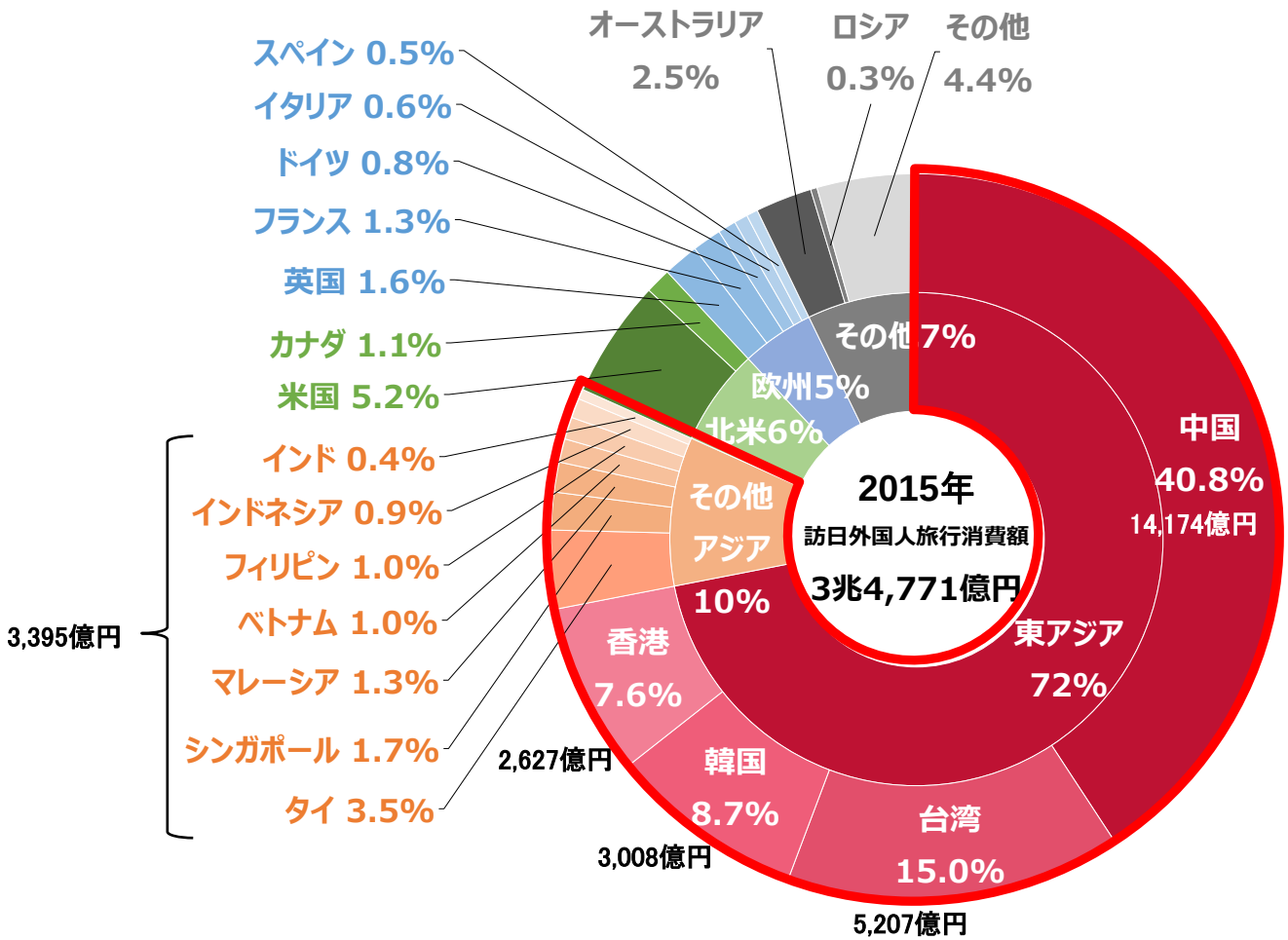




出典：「旅行・観光消費動向調査」「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）、「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

国・地域別訪日外国人旅行者消費額の割合（2015年）

- アジアからの旅行者の消費額は、約2兆8411億円で**全体の8割**を占めた。
- 国・地域別では、**中国が初めて1兆円を超え、総額の4割**を占めた。



出典：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）

国・地域別の費目別一人当たり旅行消費額上位10位（2015年）

➢ 中国などアジアからの旅行者は**買物代**の消費が多く、欧米豪は**宿泊料金や交通費**の消費が多い。

単位：（円／人）

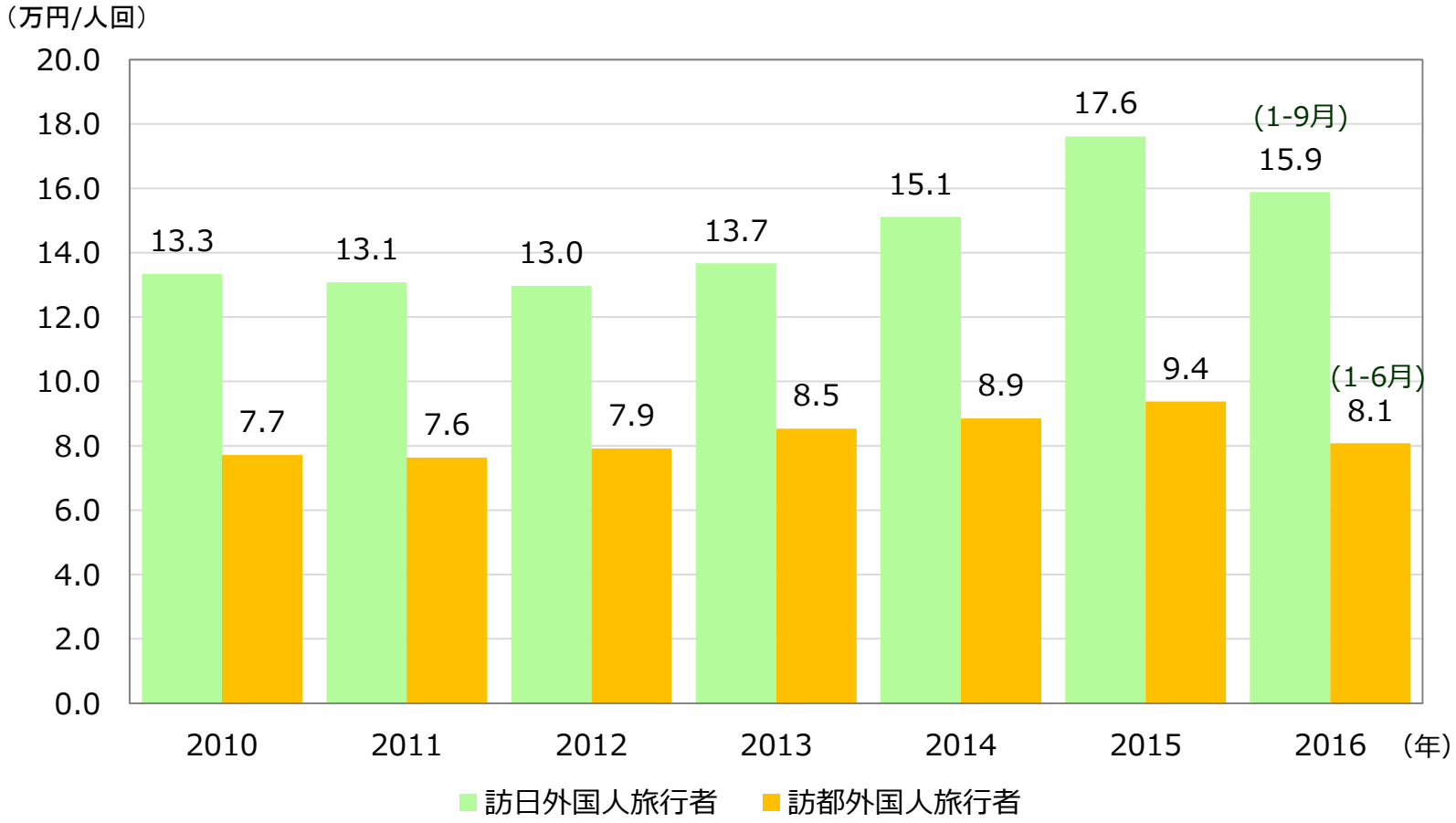
	旅行支出総額		宿泊料金		飲食費		交通費		娯楽サービス費		買物代	
1	中国	283,842	英国	97,220	オーストラリア	52,927	スペイン	45,109	オーストラリア	14,079	中国	161,973
2	オーストラリア	231,349	オーストラリア	91,177	スペイン	51,629	イタリア	38,393	フランス	9,169	ベトナム	75,164
3	スペイン	227,288	フランス	84,677	イタリア	49,158	フランス	36,968	カナダ	8,652	香港	72,145
4	英国	210,681	スペイン	84,472	英国	46,367	オーストラリア	36,338	スペイン	8,424	シンガポール	60,415
5	フランス	209,333	イタリア	78,102	中国	42,307	ドイツ	34,755	ロシア	8,193	台湾	59,500
6	イタリア	202,077	米国	74,017	フランス	41,704	カナダ	31,107	ドイツ	7,783	ロシア	54,270
7	ベトナム	194,840	ドイツ	69,160	ベトナム	41,368	英国	29,667	中国	6,308	タイ	53,694
8	シンガポール	187,383	シンガポール	63,677	米国	40,889	米国	25,465	マレーシア	6,242	マレーシア	49,454
9	ロシア	182,484	カナダ	60,886	シンガポール	38,761	ロシア	24,538	英国	6,188	フィリピン	42,809
10	米国	175,554	ロシア	59,267	インド	36,729	インドネシア	24,327	米国	5,883	インドネシア	40,338

東アジア　その他アジア　欧米豪

出典：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）

訪日・訪都外国人旅行者一人当たりの旅行消費額の推移

- **2015年までは**訪日・訪都ともに外国人一人当たりの旅行消費は**増加傾向**
- 2016年1月から9月の訪日外国人一人当たりの旅行消費は**前年より減少**し、**約15万9000円**

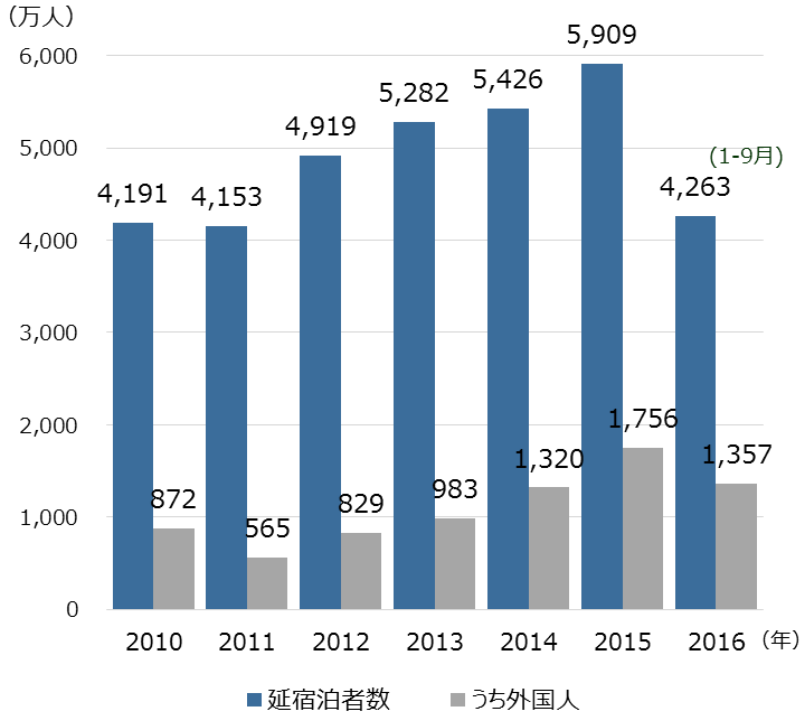


出典:「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）、「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

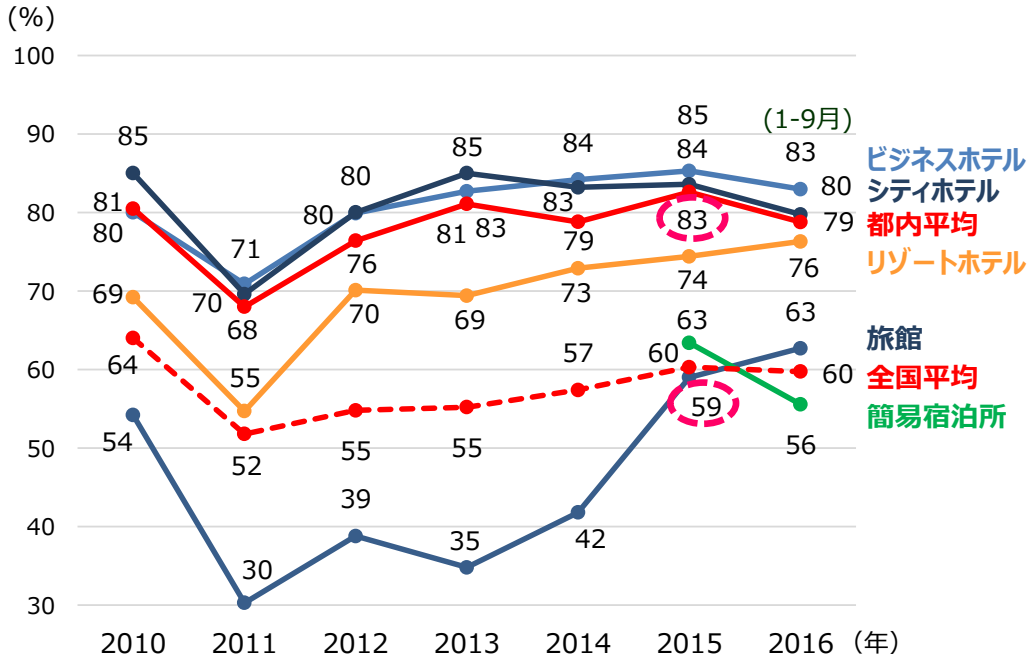
都内延べ宿泊者数の推移及び都内宿泊施設の客室稼働率推移

- 2015年の都内延べ外国人宿泊者数は約1,756万人であり、2011年から増加傾向
- 2015年の**都内ホテルの稼働率は約8割に達しているが、旅館の稼働率は約6割**に留まる

都内延べ宿泊者数



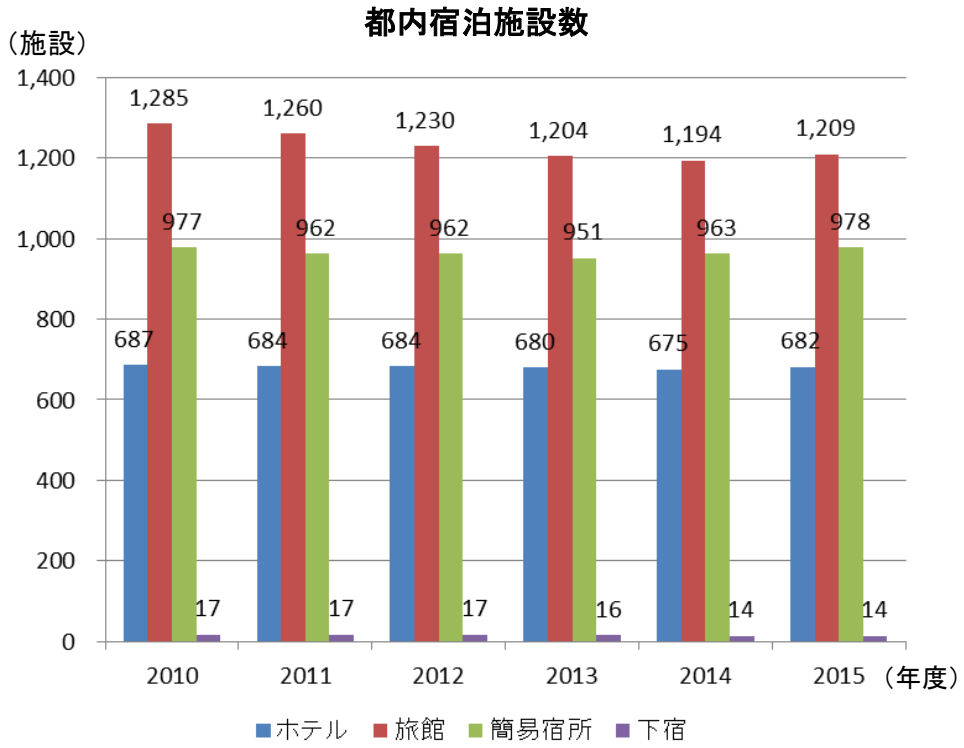
都内客室稼働率

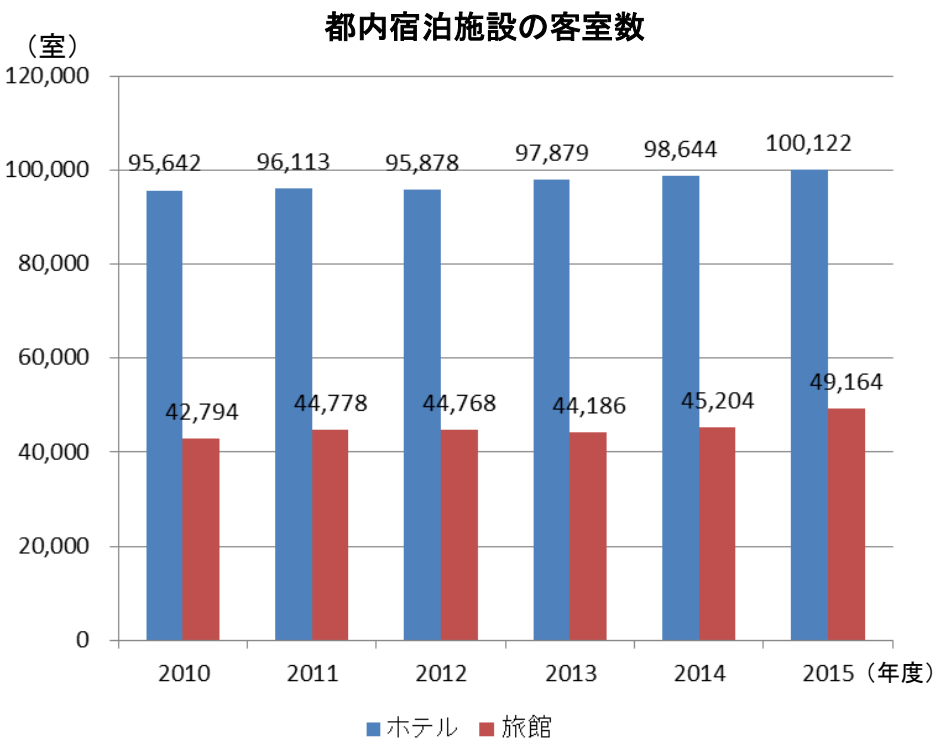


出典:「宿泊旅行統計調査(観光庁)」

都内宿泊施設数・客室数の推移

- ホテル・旅館の施設数はやや減少傾向にあるが、2015年度はそれぞれ**682施設**・**1,209施設**と前年度に比べ微増となっている。
- 一方、客室数は増加傾向にあり、2010年度と2015年度を比べると、**ホテル**は**約4,500室**・**旅館**は**約6,400室増加**している。





出典:「衛生行政報告例（年度報）」（厚生労働省）

ビザ緩和の変遷

➢ アジア諸国等に対するビザ要件の緩和が進んでおり、**訪日客の増加**につながっている。

＜主なビザ緩和の事例＞

国		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
中国	団体	観光ビザ発給開始				発給地域拡大	発給地域全国化						数次(沖縄)	数次(東北三県)				
	個人										観光ビザ発給開始	発給地域全国化						
香港						免除												
韓国							免除											
台湾							免除											
タイ														数次	免除			
シンガポール		免除済み																
マレーシア														数次	免除			
インドネシア														数次		免除		
フィリピン															数次			
ベトナム															数次			
ミャンマー																数次		
カンボジア															数次			
ラオス															数次			
インド																数次		
ブラジル																	数次	
ロシア																		

ビザ免除・緩和された国の訪日外国人旅行者数の比較

	2014年		2015年	
	人数	対前年比	人数	対前年比
タイ	657,570人	45.0%	796,731人	21.2%
マレーシア	249,521人	41.4%	305,447人	22.4%
インドネシア	158,739人	16.0%	205,083人	29.2%
フィリピン	184,204人	70.0%	268,361人	45.7%
ベトナム	124,266人	47.1%	185,395人	49.2%
インド	87,967人	17.1%	103,084人	17.2%

※ミャンマー、カンボジア、ラオスのデータはなし

○ **数次ビザ**：有効期限が切れるまでは何度でも入国可能なビザ

○ **一次ビザ**：一回限り有効で、都度申請が必要なビザ

今後の動き

◆ 中国人に対するビザ発給要件の緩和等

4月30日に発表した中国人に対するビザ発給要件緩和等の措置に関し、10月17日から運用を開始。

＜具体的な措置の内容＞

（1）商用目的の者及び文化人・知識人に対する数次ビザ

ビザの有効期間を現行の最長5年から最長10年に延長するとともに発給対象者の要件を一部緩和。

（2）中国教育部直属大学に所属する学部生・院生及びその卒業後3年以内の卒業生に対する個人観光一次ビザ

経済力が確認できる書類を、中国教育部直属大学の発行する在学証明書又は卒業証明書に代えることもできることとする。

出典：外務省、日本政府観光局（JNTO）情報をもとに作成

空海港別の入国外国人数の推移

➢ 2015年の入国外国人数（約1969万人）のうち、**成田空港、関西空港、羽田空港（入国者数上位3空港）の利用者（約1361万人）**は、全体の**約７割**を占めている。

入管データのため
寄港者数とは異なる

空海港別の入国外国人数の推移

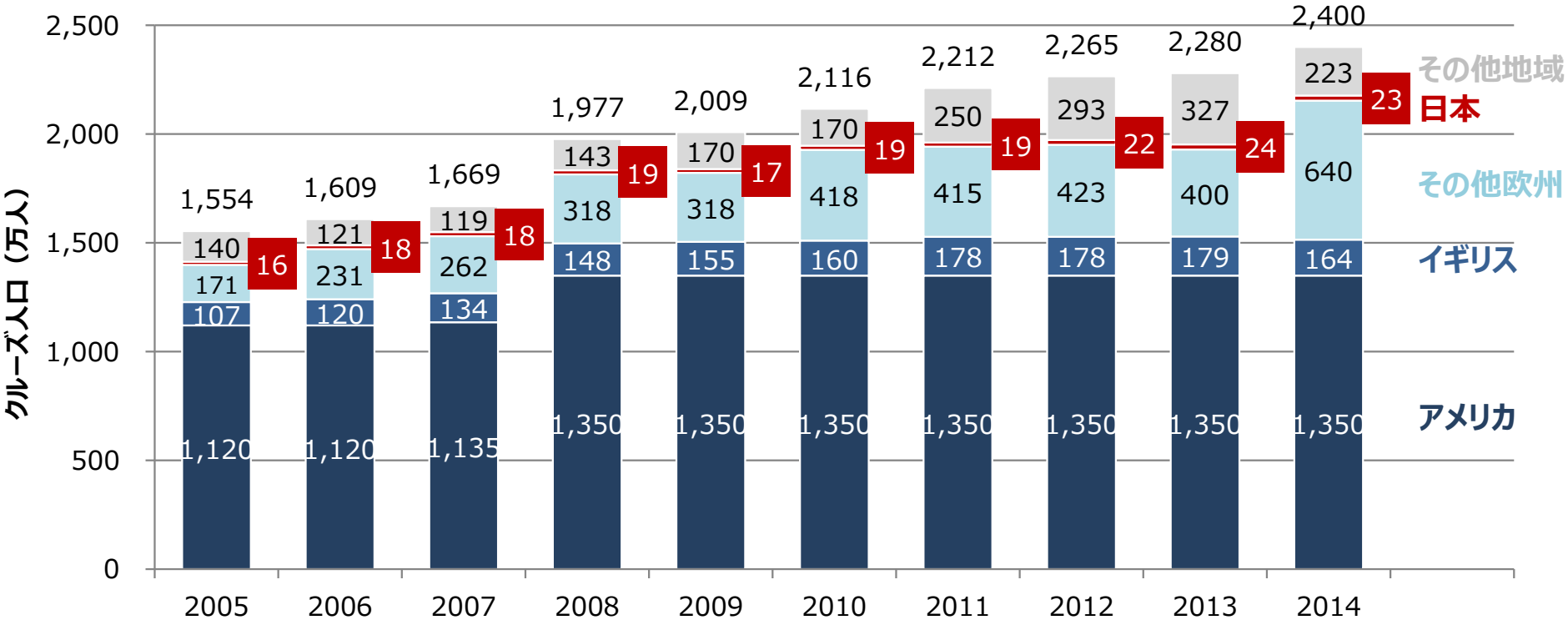
単位：万人　　単位：人

年	新千歳空港	茨城空港	羽田空港	成田空港	中部空港	関西空港	福岡空港	那覇空港	その他の空港	その他の海港	計	東京港
2006	26.7 (3.3%)	－ －	34.4 (4.2%)	401.6 (49.5%)	51.6 (6.4%)	147.1 (18.1%)	38.7 (4.8%)	6.5 (0.8%)	54.2 (6.7%)	50.1 (6.2%)	810.8	548
2007	30.1 (3.3%)	－ －	44.1 (4.8%)	437.6 (47.8%)	59.6 (6.5%)	164.7 (18.0%)	43.3 (4.7%)	8.4 (0.9%)	60.8 (6.6%)	66.6 (7.3%)	915.2	496
2008	31.1 (3.4%)	－ －	53.3 (5.8%)	428.3 (46.8%)	59.6 (6.5%)	164.1 (17.9%)	42.6 (4.7%)	10.6 (1.2%)	55.0 (6.0%)	69.8 (7.6%)	914.5	720
2009	29.8 (3.9%)	－ －	51.2 (6.8%)	378.9 (50.0%)	41.5 (5.5%)	134.9 (17.8%)	32.0 (4.2%)	8.8 (1.2%)	37.6 (5.0%)	43.4 (5.7%)	758.1	521
2010	36.3 (3.8%)	2.5 (0.3%)	75.1 (8.0%)	419.6 (44.4%)	50.7 (5.4%)	174.5 (18.5%)	48.4 (5.1%)	14.0 (1.5%)	53.0 (5.6%)	70.2 (7.4%)	944.3	563
2011	29.0 (4.1%)	1.9 (0.3%)	90.8 (12.7%)	282.0 (39.5%)	41.7 (5.8%)	133.9 (18.8%)	40.7 (5.7%)	16.3 (2.3%)	32.0 (4.5%)	45.3 (6.3%)	713.5	314
2012	39.0 (4.3%)	2.8 (0.3%)	109.8 (12.0%)	356.2 (38.8%)	47.6 (5.2%)	179.2 (19.5%)	56.1 (6.1%)	23.1 (2.5%)	43.0 (4.7%)	60.4 (6.6%)	917.2	933
2013	50.6 (4.5%)	3.3 (0.3%)	129.3 (11.5%)	426.3 (37.9%)	57.4 (5.1%)	232.3 (20.6%)	68.7 (6.1%)	37.4 (3.3%)	58.4 (5.2%)	61.8 (5.5%)	1,125.5	184
2014	66.2 (4.7%)	4.0 (0.3%)	175.2 (12.4%)	493.2 (34.9%)	69.9 (4.9%)	317.0 (22.4%)	88.4 (6.2%)	65.3 (4.6%)	71.9 (5.1%)	63.9 (4.5%)	1,415.0	374
2015	94.8 (4.8%)	5.8 (0.3%)	248.6 (12.6%)	611.8 (31.1%)	100.9 (5.1%)	500.8 (25.4%)	139.3 (7.1%)	107.8 (5.5%)	102.0 (5.2%)	57.1 (2.9%)	1,968.9	351

出典：出入国管理統計より作成

世界のクルーズ人口の推移

- 世界のクルーズ人口は増加傾向にあり、**アメリカやイギリスなどの欧米の割合が高い**
- 一方、**日本のクルーズ人口は約23万人**で、総人口に対する**クルーズ人口の比率も0.2%**と低い状況（アメリカ4.2%、イギリス2.5%）



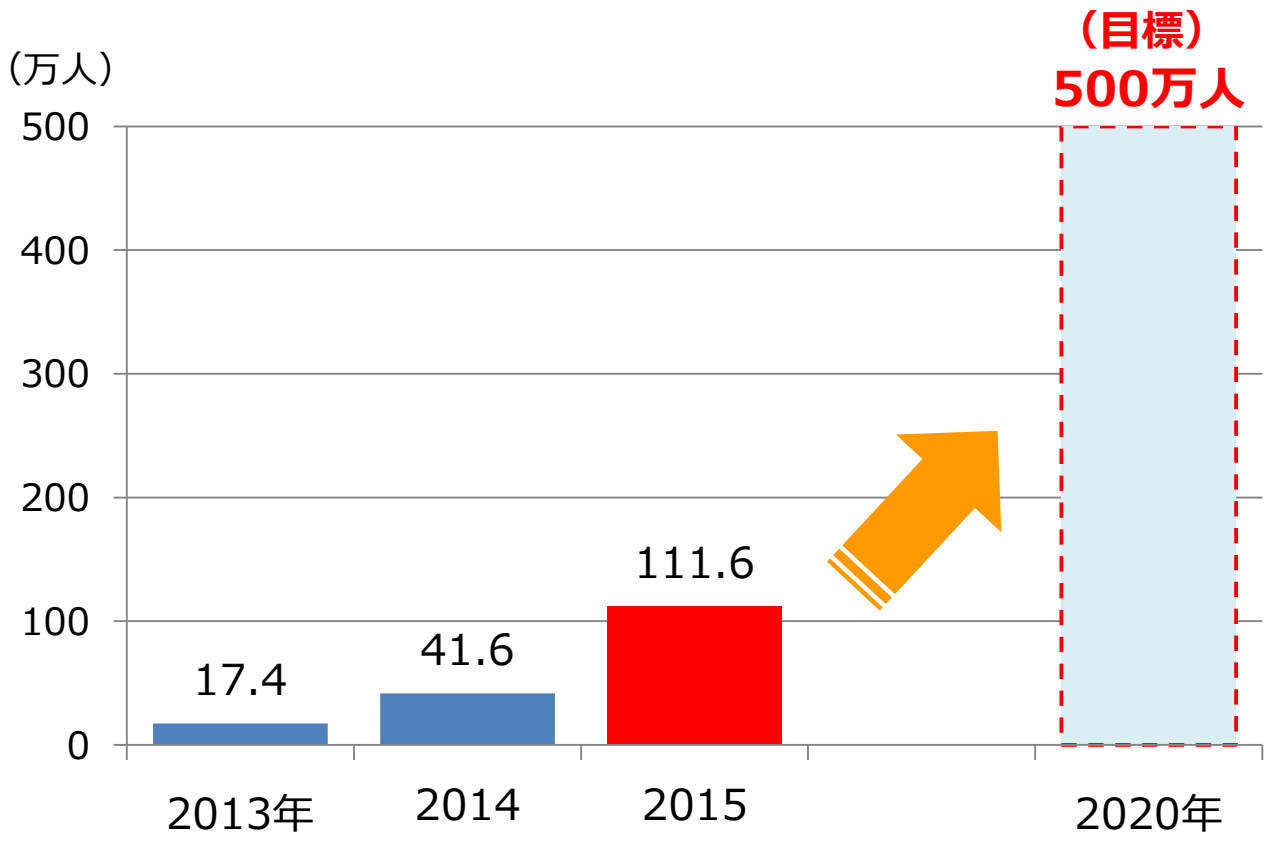
	人口（万人）	クルーズ人口（万人）	クルーズ人口比率(%)
日本	12,713	23	0.2%
イギリス	6,451	164	2.5%
アメリカ	31,886	1,350	4.2%

出典：The World Bank（人口）、「世界のクルーズ人口の推移」（国土交通省）

クルーズ船による外国人入国者数

- 2015年のクルーズ船による外国人入国者数は**初めて100万人を突破**し、政府目標を**５年前倒しで達成**

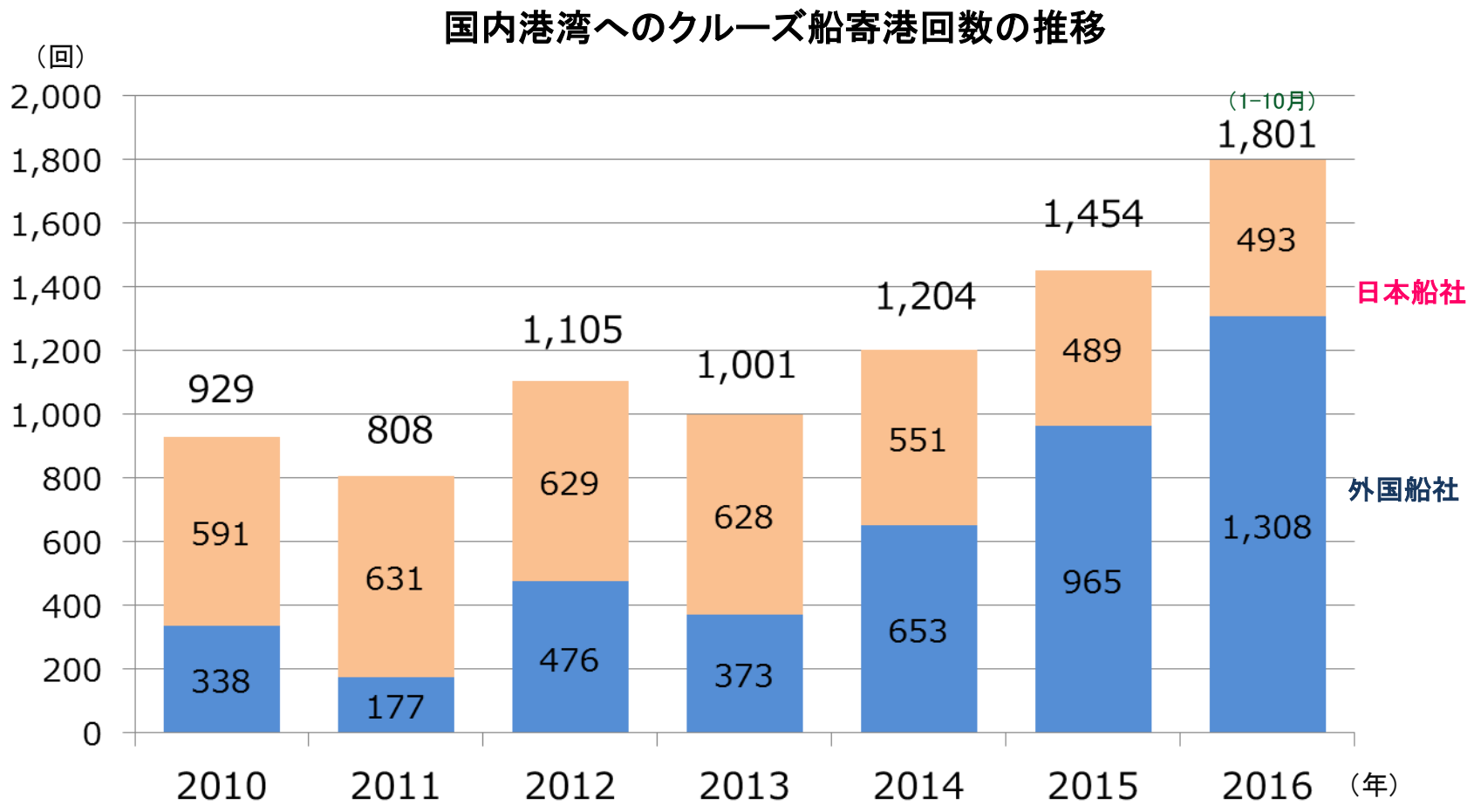
⇒「明日の日本を支える観光ビジョン」において**新たな目標を設定（2020年までに500万人）**



出典：国土交通省港湾局資料より作成

国内港湾へのクルーズ船寄港回数の推移

- 国内港湾へのクルーズ船寄港回数は2013年以降**増加傾向にあり、2016年は10月までで過去最高の1,801回**となった



出典：「2015年の我が国のクルーズ等の動向について」「Japan Cruise Report 11月15日号【全国版】」（国土交通省）

国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社）

- 2015年のクルーズ船（外国船社）の国内港湾への寄港回数は、中国からのクルーズ船の寄港増加などから、**過去最高の965回**を記録
- 港湾別では、博多港245回、長崎港128回、那覇港105回の順に寄港回数が多い

外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数

順位	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	博多	61	石垣	42	博多	85	石垣	59	博多	99	博多	245
2	那覇	46	那覇	37	長崎	72	那覇	41	長崎	70	長崎	128
3	鹿児島	45	博多	26	那覇	47	長崎	35	石垣	69	那覇	105
4	石垣	45	長崎	17	石垣	46	横浜	32	那覇	68	石垣	79
5	長崎	39	横浜	9	鹿児島	27	博多	19	横浜	48	鹿児島	51
6	神戸	22	鹿児島	8	横浜	26	神戸	18	神戸	32	神戸	42
7	横浜	18	広島	6	別府（大分県）	25	広島	16	小樽	31	横浜	37
8	広島	8	神戸	6	神戸	22	鹿児島	16	鹿児島	29	佐世保	34
9	大阪	6	大阪	5	大阪	22	大阪	12	函館	27	広島	25
10	函館	4	別府（大分県）	4	広島	14	境	12	釧路	21	大阪	18
	その他	44	その他	17	その他	90	その他	113	その他	159	その他	201
	合計	338	合計	177	合計	476	合計	373	合計	653	合計	965

出典：国土交通省「2015年の我が国のクルーズ等の動向について」

国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社及び日本船社）

- 2015年のクルーズ船（外国船社及び日本船社）の国内港湾への寄港回数は、**過去最高の1,454回**を記録
- 港湾別では、博多港259回、長崎港131回、**横浜港125回**の順に寄港回数が多い

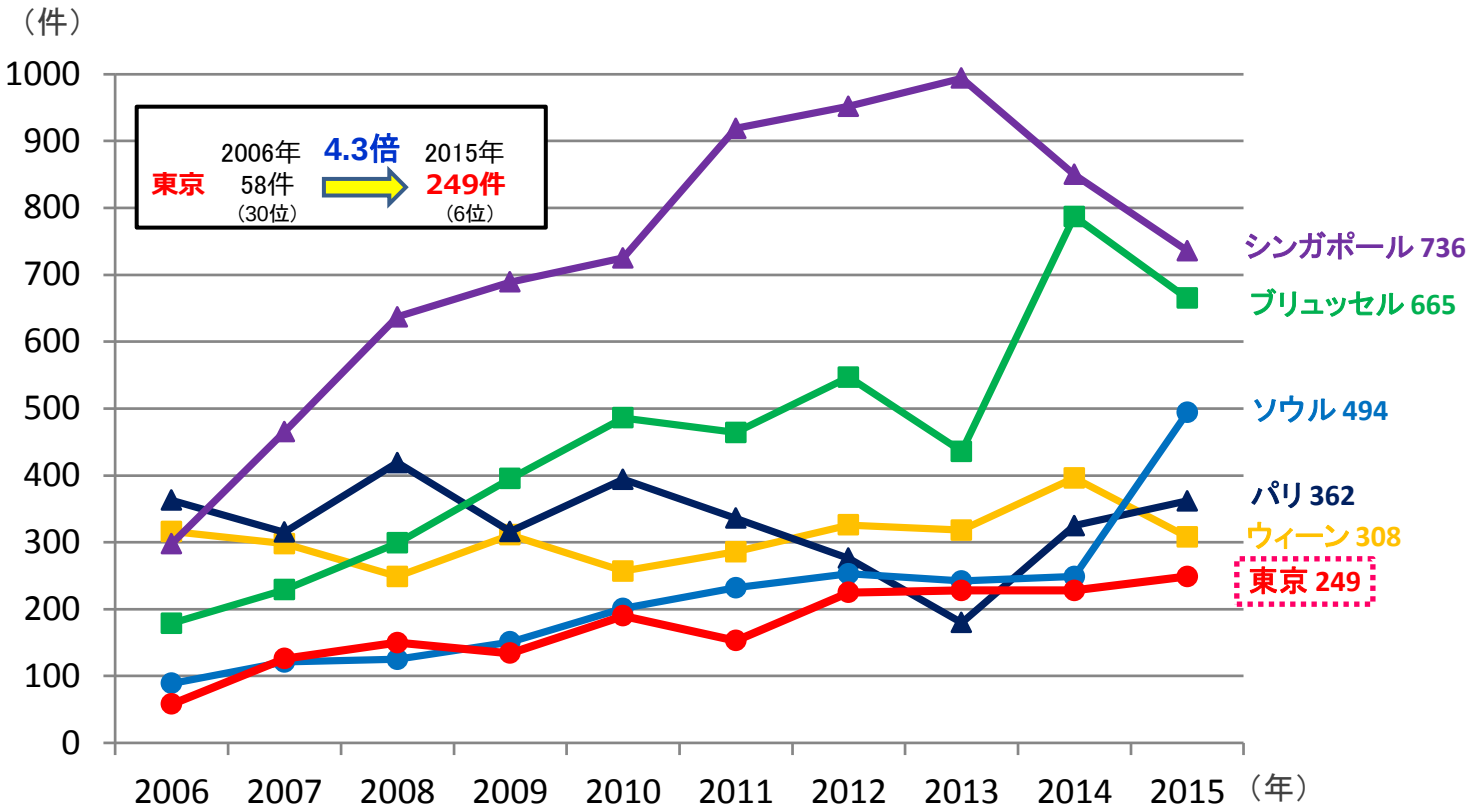
外国船社及び日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数

順位	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	横浜	122	横浜	119	横浜	142	横浜	152	横浜	146	博多	259
2	神戸	103	神戸	107	博多	112	神戸	101	博多	115	長崎	131
3	博多	84	博多	55	神戸	110	石垣	65	神戸	100	横浜	125
4	長崎	54	那覇	53	長崎	73	那覇	56	那覇	80	那覇	115
5	鹿児島	52	石垣	49	那覇	67	東京	42	長崎	75	神戸	97
6	那覇	52	名古屋	28	石垣	52	長崎	39	石垣	73	石垣	84
7	石垣	47	宮之浦（屋久島）	23	名古屋	43	博多	38	小樽	41	鹿児島	53
8	名古屋	27	長崎	21	鹿児島	34	名古屋	35	函館	36	佐世保	36
9	宮之浦（屋久島）	25	広島	19	別府（大分県）	34	二見（父島）	29	鹿児島	33	名古屋	34
10	広島	22	鹿児島	18	大阪	33	広島	26	名古屋	30	広島	32
	東京	22										
	その他	319	その他	316	その他	405	その他	418	その他	475	その他	488
	合計	929	合計	808	合計	1,105	合計	1,001	合計	1,204	合計	1,454

出典：国土交通省「2015年の我が国のクルーズ等の動向について」

世界各都市における国際会議の開催件数の推移

➢ 東京における国際会議の開催件数は、**この10年間で約4.3倍と増加**しているが、依然として競合都市であるシンガポールやソウル等に後れを取っている。

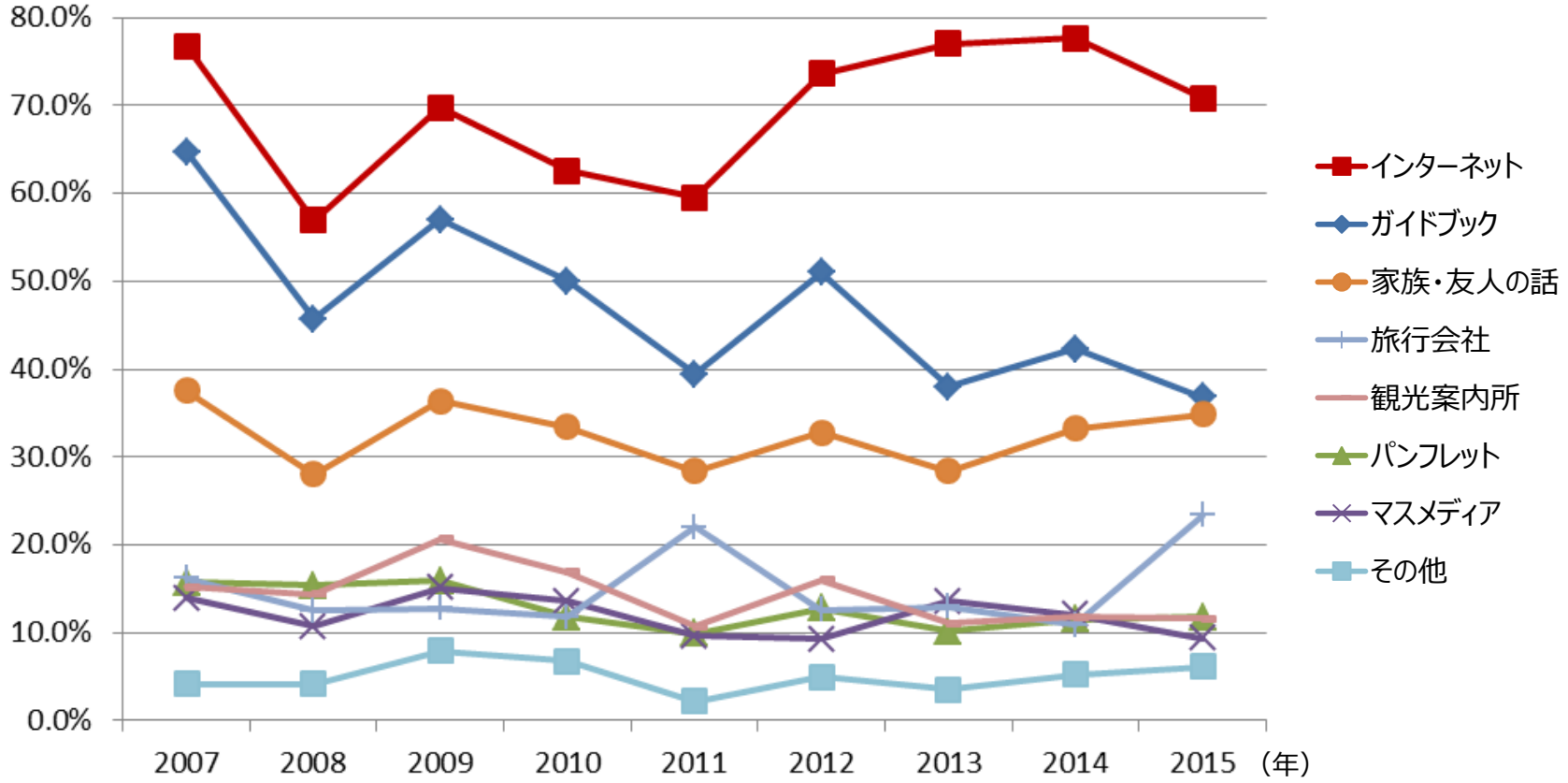


注　UIA（国際団体連合）※ 統計基準による開催件数を掲載
（※組織団体等に関わる情報の調査・収集・分析を行う非営利・非政府の団体で、「UIA国際会議統計」を年に一度発表している）

出典：「国際会議統計」（日本政府観光局）、UIA（国際団体連合）資料をもとに作成

訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷

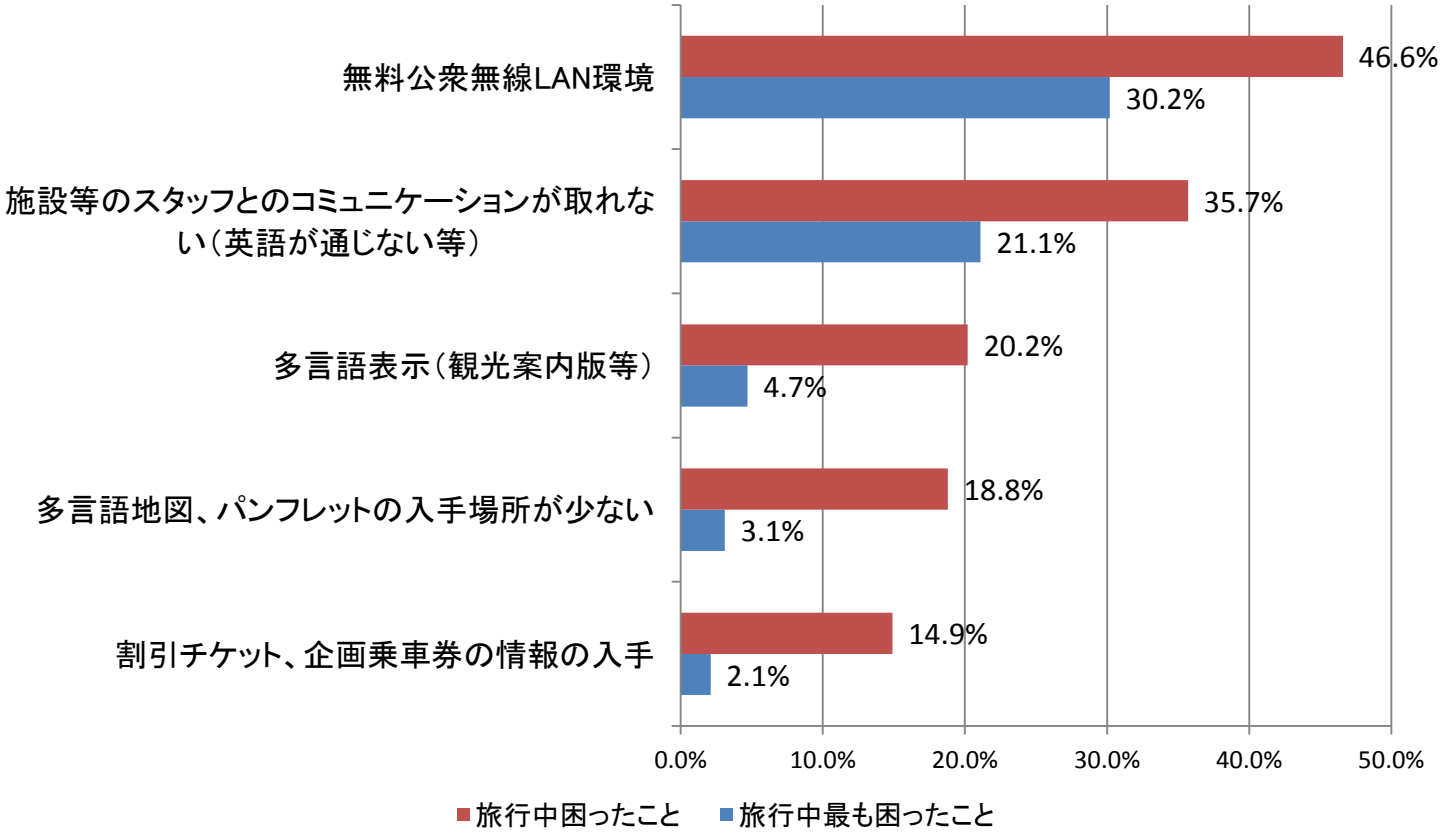
➢ 旅行者が観光情報を収集する主な手段は、**ガイドブックなどの紙媒体**から、リアルタイムで情報を容易に入手できる**インターネット**へと移行している。



出典:「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

外国人旅行者が旅行中に困ったこと（2015年）

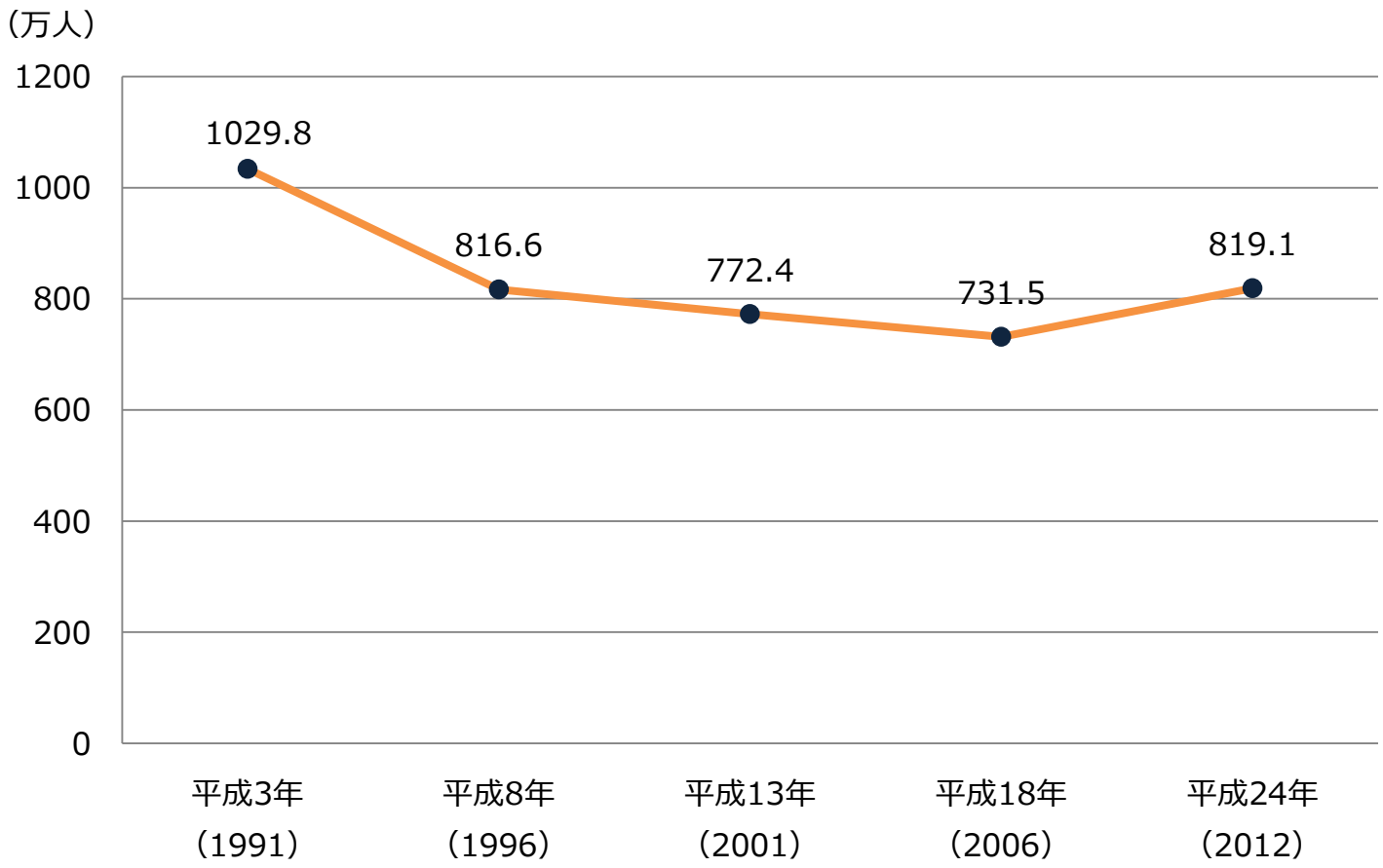
- 訪日旅行中に「最も困ったこと」、「困ったこと」の第一位はいずれも**無料公衆無線ＬＡＮ環境**となっている。



出典：「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する現状調査」（総務省、観光庁）

西多摩地域の入込観光客数の推移

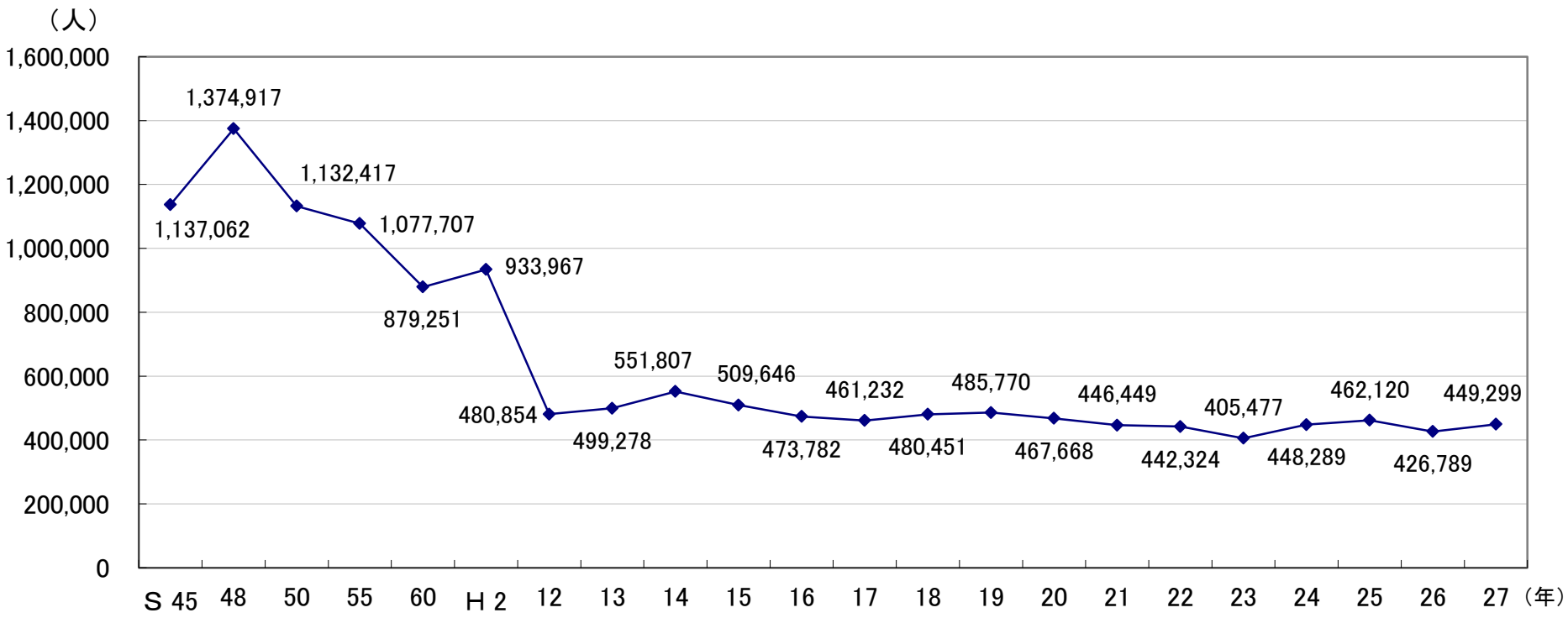
- 訪都旅行者全体の数が増加しているなか、西多摩地域への旅行者数は**この約10年間でわずか6%の増加**に留まっている。



出典:「西多摩地域観光入込客調査報告書」（西多摩地域広域行政圏協議会）

伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移

➢ 島しょ地域への旅行者数は、昭和48年をピークに長期に渡り低迷しており、依然として**ピーク時の３割程度**の旅行者数に留まっている。



出典:「伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書」(東京都)

世界の人気観光都市ランキング2016

- 昨年圏外だった東京は**世界21位**と順位を上げているものの、依然としてロンドンやパリ、ニューヨークなどの欧米の観光先進都市を下回っている。
- また、同じ**アジア地域**のハノイ（ベトナム）やバンコク（タイ）、香港（中国）等にも**後れ**を取っている状況である。

順位	都市（国名）		
1位	ロンドン（イギリス）	13位	ドバイ（アラブ首長国連邦）
2位	イスタンブール（トルコ）	14位	サンクトペテルブルク（ロシア）
3位	マラケシュ（モロッコ）	15位	バンコク（タイ）
4位	パリ（フランス）	16位	アムステルダム（オランダ）
5位	シェム リアップ（カンボジア）	17位	ブエノスアイレス（アルゼンチン）
6位	プラハ（チェコ共和国）	18位	香港（中国）
7位	ローマ（イタリア）	19位	プラヤ デル カルメン（メキシコ）
8位	ハノイ（ベトナム）	20位	ケープタウンセントラル（南アフリカ）
9位	ニューヨーク（アメリカ）	21位	東京（日本）
10位	ウブド（インドネシア）	22位	クスコ（ペルー）
11位	バルセロナ（スペイン）	23位	カトマンズ（ネパール）
12位	リスボン（ポルトガル）	24位	シドニー（オーストラリア）
		25位	ブダペスト（ハンガリー）

出典：「トラベラーズチョイス　世界の人気観光都市ランキング2016」（トリップアドバイザー）

Condé Nast Traveler（コンデ・ナスト・トラベラー） Best Cities in the World

➢ 米国の富裕層向け旅行雑誌「Condé Nast Traveler（ｺﾝﾃﾞ・ﾅｽﾄ・ﾄﾗﾍﾞﾗｰ）」の**世界で最も魅力的な都市ランキングで、**初めて**東京が第1位**（昨年15位）に選ばれた。

【読者投票ランキング2016年「Best Cities in the World」 上位10都市】

1位	**東京（日本）**	**※15位**
2位	京都（日本）	※9位
3位	フィレンツェ（イタリア）	※1位
4位	ルツェルン（スイス）	※18位
5位	サン・ミゲル・デ・アジェンデ（メキシコ）	※ランク外
6位	バンクーバー（カナダ）	※19位
7位	ビクトリア（カナダ）	※24位
8位	ザルツブルグ（オーストリア）	※12位
9位	バルセロナ（スペイン）	※14位
10位	ウィーン（オーストリア）	※3位

注：米国を除く世界各都市
※ 国名の後の数字は2015 年の順位

出典：日本政府観光局（JNTO）